

自治体と「教育」—人材育成・経済循環の検証

大学公立化・高校市立化

—地域の人材・担い手づくり、産業振興と地方創生

□地方私大の公立化—浮かぶ私大・沈む私大に自治体はどう関わるべきか

■長岡造形大の公立化—地域貢献・産学連携とまちづくり・産業振興への波及効果

□北海道立三笠高校の市立化—コンセプト「高校は成長のエンジン」の評価と人材(財)開発効果

■(兵庫・豊岡市) 県立専門職大学(芸術・観光)の誘致と世界のアーティストの参画—文化芸術活動と多文化共生

2019年2月14日(木) 9:50~17:00 厚生会館・会議室(東京・千代田区)

【講師陣】小川 洋 氏 / 教育研究者

林 智和 氏 / 長岡市地方創生推進部政策企画課係長(新潟県)

西城 賢策 氏 / 三笠市長(北海道)

谷口 雄彦 氏 / 豊岡市環境経済部大交流課長(兵庫県)

【参加要領】

■会場：厚生会館・会議室
東京都千代田区平河町1-5-9
(案内図は申込後送付)

■参加費(1名分)

	1名参加	2名以上参加
行政・議員	25,000円	24,500円
一般	35,000円	34,000円

■支払方法：請求後の振込・郵便振替・当日払い

みずほ銀行麹町支店 普通1159880

三井住友銀行麹町支店 普通7411658

三菱UFJ銀行神田支店 普通5829767

郵便振替:00110-8-81660 □口座名:(株)地域科学研究会

■申込方法：下記の申込書に所要事項を記入の上送付下さい
(FAX・郵送・メール等)

参加費の払い戻しは致しませんので、申込後にご都合が悪く
欠席される場合には代理の方の出席をお願い致します。

請求書等書類が不要の方は開催日までに上記口座へ振込をお願いします。書類が必要な
方には受講証と共に郵送しますので到着後にお支払いをお願いします。領収書が必要な
方には当日受付でお渡し致します(日付、但書等の留意点があれば明記下さい)。

お申し込み・お問い合わせ



あすの街と村を考える

地域科学研究会

東京都千代田区一番町6-4ライオンズ第2-106
TEL03(3234)1231 FAX03(3234)4993 〒102-0082
http://chiikikagaku-k.co.jp/

【申込書】 FAX: 03-3234-4993 Email: machi@chiikikagaku-k.co.jp

年 月 日

■研修会『大学公立化・高校市立化』への申込み

当日参加 ※メディア参加はございません。

勤務先

連絡担当者

所在地〒

TEL

参加者氏名

所属部課役職名

FAX

Email

〈通信欄〉○を付けて下さい

支払方法(請求後の振込・郵便振替・当日払い)

必要書類(納品書・請求書・見積書・領収書)

請求書等宛先名: _____

時	講 義 内 容
9:50 ～ 11:20	<p>地方私大の役割と可能性—自治体はどう関わるべきか</p> <p>1. 大学に問われているもの (1)大学運営の費用は誰が負担すべきか (2)大学のアカウントビリティが問われる</p> <p>2. 地方私大の置かれている環境 (1)最後の生き残り機会が来ている (2)教員採用と学生募集の視点</p> <p>3. 浮かぶ地方私大と沈む地方私大 (1)浮かぶ地方私大—安定した学生募集はいかにして可能か (2)沈む地方私大</p> <p>4. 大学に必要なもの (1)リーダーシップと風通しのよい組織文化 (2)教職協働</p> <p>5. 公立化という選択肢 (1)公立大学の歴史 (2)90年代からの公立大の今後 (3)低迷する地方私大を公立化する意味はあるか</p> <p>教育研究者 小川 洋氏</p> <p>【 質疑応答 】</p> <p>小川洋氏プロフィール 1948年生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。埼玉県立高校教員(社会科)として勤務する傍ら、国立教育研究所(現・国立教育政策研究所)研究員として、カナダの中等教育等を研究。その後、私立大学で教職科目を担当。主著として『なぜ公立高校はダメになったのか』(叢書房、2000年)、『消えゆく限界大学—私立大学定員割れの構造』(白水社、2016年)。訳書として『ロッキーの麓の学校から—第2次世界大戦中の日系カナダ人収容所の学校教育』(東信堂、2011年)等。</p>
11:30 ～ 13:00	<p>〔新潟・長岡市〕長岡造形大学の公立化—そのプロセス・成果と波及効果 ～3大学1高専と連携したNaDeC構想による人づくり・産業振興への取組み～</p> <p>1. 長岡市の概況</p> <p>2. 長岡造形大学における地域貢献・産学連携の取組み (1)長岡造形大学の概要と公立化について (2)地域貢献・産学連携の取組み事例について</p> <p>3. 大学を核としたまちづくり・産業振興の取組み (1)市内3大学1高専による包括連携協定について (2)大学を核としたまちづくりの取組み事例について</p> <p>長岡市地方創生推進部政策企画課係長 林 智和氏</p> <p>【 質疑応答 】</p> <p>長岡造形大は地方私大として学生募集に苦心していたが、2014年に公立化した結果、受験生は定員を大きく上回っている。長岡市では、他の2大学・1高専と連携して活動拠点「NaDeC BASE(ナデックベース)」を整備し、人材育成や産業振興、にぎわいづくりへの取組みを推進している。</p>
13:50 ～ 15:20	<p>北海道立三笠高校の市立化—そのコンセプト、プロセス、成果と展望 ～「高校は成長のエンジン」—人材(財)の定着と安定と回帰の地域力～</p> <p>1. わがまち「三笠市」</p> <p>2. 三笠高等学校市立化の経緯 (1)三笠高校の歴史 (2)三笠高校のクラブ活動</p> <p>3. 高校生レストラン開設の経緯・概要 (1)レストランオープンに当たって (2)レストランの機能 (3)レストランでの生徒の取組み</p> <p>4. 今後の課題・問題点 (1)レストランの今後の課題・問題点 (2)三笠高校市立化で生まれた効果</p> <p>三笠市長(北海道) 西城 賢策氏</p> <p>【 質疑応答 】</p> <p>廃校予定の北海道立三笠高校の市立化(食物調理科)を市議会での激論を経て実現。高校進学を選択肢を市内に確保すると共に、全国・全道から生徒を募集している。クラブ活動のレストランが「高校生レストラン」に成長し、三笠市4大プロジェクトと連動。現在「食の基本条例」制定や「食街道づくり」に挑戦。</p>
15:30 ～ 17:00	<p>〔兵庫・豊岡市〕文化芸術活動を生かした「小さな世界都市」の実現 ～専門職大学、アーティスト等の誘致によるまちづくりと人づくり～</p> <p>1. 豊岡市の概況</p> <p>2. 「地方で暮らす価値」の創造、再構築 (1)城崎国際アートセンター (2)Local & Globalな人づくりとまちづくり</p> <p>3. 専門職大学を核とした地方創生 (1)専門職大学の概要 (2)専門職大学と国際演劇祭</p> <p>豊岡市環境経済部大交流課長 谷口 雄彦氏</p> <p>【 質疑応答 】</p> <p>豊岡・城崎温泉のインバウンドはこの5年で約40倍に。「小さな世界都市」を目指す豊岡市では様々な文化芸術活動を展開。平田オリザ芸術監督で知られる城崎国際アートセンター初め国際演劇祭(2019)開催等を積極的に推進。県立専門職大学(観光・アート)を誘致して、大学を核にした地方創生に取り組む。</p>